

## „Germanistik Kyoto“ 執筆申し込み要領

1. „Germanistik Kyoto“ への論文執筆をご希望の会員の方は、下記の要領でお申し込み下さい。

(1) 氏名・住所・メールアドレス・題目を明記した論文要旨（A4版・横書きで1200字以内、ドイツ語の場合は「執筆要領」1.2.の規定に従って1枚以内）を申し込み締切日までに電子ファイルで送付する。

(2) その後、「執筆要領」を遵守して作成した論文を、原稿の締切日までに送付する。

※ なお、論文は原則として未発表のものに限ります。ただし、口頭発表のみが先行している場合は可とします。（その場合には、申し込み時にその旨を明記して下さい。）

2. 審査について

(1) 申し込み締め切り後、送付された論文要旨をもとに、審査に付託するかどうかを決定します。（執筆申し込みが多数になった場合には、5編程度の上限を設けることがあります。また、前年度寄稿者には、遠慮していただくことがあります。）

(2) 原稿送付の締め切り後、最終的に採否を編集委員会で決定します。採否の結果については、編集委員会からお知らせします。

3. 原稿について

(1) 日本語での執筆の場合、分量は400字詰原稿用紙に換算して50枚までとし、別にドイツ語のレジメを添付するものとします。なお、詳細については「執筆要領」をご参照下さい。

(2) ドイツ語で執筆される場合は、「執筆要領」1.2.をご参照下さい。

(3) ドイツ語のレジメや、ドイツ語で執筆された論文は、あらかじめドイツ語母語話者に目を通しておいてもらって下さい。

4. 執筆申し込みおよび論文原稿は、電子ファイルの形で、日本独文学会京都支部宛て（メールアドレス [kyoto@jgg.jp](mailto:kyoto@jgg.jp)）に送付して下さい。

5. 締切日について

（第 24 号）申し込み締切日：2022 年 12 月 15 日

原稿締切日：2023 年 2 月 28 日（期日厳守）

## „Germanistik Kyoto“ 執筆要領

### 1. 原稿について

- (1) 電子ファイルを、日本独文学会京都支部宛て（メールアドレス [kyoto@jgg.jp](mailto:kyoto@jgg.jp)）に送付して下さい。
- (2) 掲載論文の校正は、誤植の訂正以外は不可とします。

### 1.1. 日本語の場合

- (1) A4版の用紙に左右上下とも3cmの余白をとり、40字×30行（横書き）で書いて下さい（本文・註の合計で17枚以内）。
- (2) 段落の書き出しは1字下げして下さい。
- (3) 句読点には「、」と「。」を使用して下さい。なお、句読点も全角扱いとします。
- (4) 文中の欧文は原則として半角扱いとし、欧文を使用する箇所の前後は半角以上空けて下さい。
- (5) 作品名・雑誌名には原則として『 』、引用文には「 」を使用して下さい。ドイツ語の引用文には原則として„ “を使用して下さい。
- (6) 用字用語は、原則として常用漢字・新仮名遣いを使用して下さい。また、一般に用いられていない表現・文字は使用しないで下さい。
- (7) 論文に添付するドイツ語のレジюмеについては、次項1.2.の規定を適用します。なお、枚数は1枚以内とします。

### 1.2. ドイツ語の場合

- (1) A4版の用紙に左右上下とも3cmの余白をとり、約80ストローク×30行で書いて下さい（本文・註の合計で17枚以内）。
- (2) 段落の打ち始めは、3字下げして下さい。
- (3) イタリアン体を使用する場合には、当該文字に赤で下線を引いて下さい。ボールド体を使用する場合には、当該文字に赤で波線を引いて下さい。
- (4) レジюмеは不要とします。

## 2. 註について

- (1) 註は後註とし、本文の末尾にまとめて記載して下さい。
- (2) 註には通し番号を付し、本文中の該当箇所の右肩にアラビア数字と半括弧で表記して下さい。また、註が文全体にかかわるときは、句点などの後ろにつけて下さい。

(例) …。」<sup>1)</sup> …、<sup>2)</sup>

## 3. 文献の記載様式 (例)

### (1) 独立の文献の場合

岩崎英二郎：ドイツ語不変化詞の用例 (大学書林) 1968.

Helbig, Gerhard: Geschichte der neueren Sprachwissenschaft. Leipzig (VEB Bibliographisches Institut) 1970.

(欧文文献では、括弧内の出版社名は省略可)

### (2) 雑誌論文の場合

早川東三：「決定度」から見た後域における語順について (『ドイツ文学』57号、1976)

Klein, Wolfgang: Textverständlichkeit — Textverstehen. In: Zeitschrift für Literaturwissenschaft und Linguistik. Heft 55 (1984), S. 7-9.

## 4. 図版について

図版を使用する場合には、その分だけ枚数を減らし、本文・註・図版の合計で17枚以内として下さい。

## 研究発表申し込み要領

研究発表会（春季・秋季の年2回開催）で口頭発表を希望される方は、日本独文学会京都支部宛て（メールアドレス kyoto@jgg.jp）に、以下の項目についてご連絡下さい。発表を希望される年度・時期のおよそ6か月前（5月末もしくは11月末）までをお願いいたします。

- (1) お名前・所属 (2) ご希望の年度・時期 (3) 発表予定題目
- (4) 内容要旨（A4版・横書きで1200字以内、ドイツ語の場合は「執筆要領」1.2.の規定に従って1枚以内）

## 『読み切りブックレット・ドイツの文化』 募集要領

## 企画主旨

- 1) このブックレットは日本独文学会京都支部が、ゲルマニスティクに関する学術業績をひろく社会に紹介するため刊行するものです。
- 2) 判型は『岩波ブックレット』と同様のものであり、初刷の費用を支部会が助成します。
- 3) 表紙のデザインおよび本文の体裁は支部会が用意し、刊行順に通し番号を振ります。
- 4) 一般書店やネット上でも販売されます。ドイツ文学・語学など、ゲルマニスティクに関心を持ちながらも、この分野に予備知識がない高校生や学部学生、一般の読者にも伝わるよう、学術書としての水準を保ちつつ、わかりやすい内容、文章で表現されることが望まれます（翻訳も対象とします）。

## 執筆申し込み要領 執筆要領

- 1) 応募資格者は、専任職を持たない支部会員とします。また、作品は未発表のもの、翻訳は未邦訳のものに限ります。
- 2) 応募者は、400字程度の要旨と完成原稿の電子データを、日本独文学会京都支部宛て（メールアドレス [kyoto@jgg.jp](mailto:kyoto@jgg.jp)）に送付して下さい。
- 3) 応募原稿の中から、支部役員会での審査を経て、原則的に、毎年1冊（1名）を選出します。（発行部数100部）
- 4) 原稿は、本文、註、図表などすべて合計して全角で40,000字以内とします。
- 5) 原稿はA4版で左右上下とも30mmの余白を取り、40字×30行で入力して下さい。その他提出原稿の詳細は„Germanistik Kyoto“に準じます。
- 6) 原稿のデータは、印刷会社で誤変換・文字化けを起こすことを避けるため、原則としてマイクロソフト・ワード形式、もしくはリッチテキスト形式で作成して下さい。
- 7) 原稿締切日：2022年12月31日（必着）